

指定管理施設事業評価票(平成29年度分)

1. 施設所管課

産業環境 部

農林 課

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市繁殖牛集中管理センター		
	所在地	日光市上栗山838-7		
指定管理者	名称	農事組合法人 栗山和牛改良組合		
	代表者名	代表理事 山口 聖治		
	住所	日光市上栗山838-7		
指定期間		平成29年4月1日 ~ 平成32年3月31日		3年間
選定方法		非公募	評価実施年	3年間のうち1年目
施設設置目的		繁殖牛(肉用牛のうち、繁殖の用に供する雌牛をいう。)の飼育管理及び肉用牛群の改良増殖を行い、肉用牛の生産振興を図るため、日光市繁殖牛集中管理センターを設置する。		
主な実施事業		・繁殖牛及び子牛(繁殖牛から生まれた牛で、生後12月未満のものをいう。)の飼育管理 ・繁殖牛群の改良増殖・肉用牛の生産振興に関する情報収集及び調査研究 ・その他目的達成に必要な事業		

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成〇〇年度		平成〇〇年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	繁殖牛預託頭数	頭	28	39	50		60					
b												
c												
d												
e												

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	-	-
収入計 A	6,991,000	0	0	0	0
指定管理料					
利用料収入 C	6,111,000				
自主事業収入	880,000				
その他					
支出計 B	6,063,912	0	0	0	0
指定事業費	6,063,912				
内人件費 D	756,000				
内外部委託費 E					
自主事業費					
事業収支 A-B	927,088	0	0	0	0
人件費率 D/B	12.47%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
外部委託比率 E/B	0.00%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	

サービス改善の状況

5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価
①サービスの 履行の 確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。	B	B
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	B	B
		外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。	B	B
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	B	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守している。	B	B
		個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。	B	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B
②サービスの 質の評 価	施設管理	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B
	利用者対応	協定書に従い、各報告書等を、市に提出している。	B	B
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	B	B
	事業運営	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B
		緊急時のマニュアルが整備され、年1回訓練を行っている。	B	B
		避難経路が適切に確保されている。	B	B
	維持管理	「業務の実施体制」に関する評価【17項目】	B	B
		協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
		事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。		B	B	
③安定性	事業運営	利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	B	B
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	B	B
	維持管理	事業計画に即し、受託事業を実施している。	B	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B
	環境配慮	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。	B	B
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	B	B
	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B
		協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
	安定性	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。	B	B
広報活動		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B
苦情等対応		要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B
		要望、苦情等を整理し、市に報告している。	B	B
利用者アンケート		利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。	B	B
利用状況	利用実績は、目標水準である。	B	B	
総括		「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	B	B
安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	B	B
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	B	B
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B
	総括	「経費の収支等」に関する評価【4項目】	B	B
所見 (成果・課題等)	(指定管理者自己評価)			
	協定書に基づき計画通り事業を実施することが出来た。			
	冬場の寒さが厳しいため、水道の凍結防止、厩舎の温度管理など、光熱水費の節約が難しい。			
	(所管課評価)			
	指定管理1年目であり、計画的に事業実施出来ている。			
前年度総合評価 ※5段階評価		総合評価 ※3段階評価	B(良好)	

※評価区分

評価基準	A(優良) = 協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。	総合評価	A(優良) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B(良好) = 協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。		B(良好) = A、C以外
	C(要改善) = 一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。		C(要改善) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良) = 評価項目のうち、A判定が80%以上		
	B(良好) = A、C以外		
	C(要改善) = 評価項目のうち、C判定が20%以上		